

さよが池

さよがいけ “さよが池” は、芸濃町楠原に伝わるお話です。

むかし、むかし、ずっとむかしのおはなしです。

伊勢のくに、楠原というところの、お宮さんのそばに、大きな池がありました。

この池は、大雨が毎日、毎日降り続くとゴーゴーッ、ゴーゴーッと音をたてて、土手が崩れてしまうのです。

さあ、そうなると大変です。牛も馬も野菜も食べ物も、みんな流されてしまうのです。

さよがいけ家も水の中につかってしまい、村人たちは、大変、困りました。

今日も、朝から、雨がザーザー降り続いています。

「えらい雨じゃなー」

「ひどうならんと、ええがのう」

と村人たちは、集まって心配していました。ところが、雷が鳴り、雨は、ますます激しくなるばかりです。

「大変だ！、大変だ！、池の土手がまた崩れるぞ！」

さよがいけ「こまったなあ」「どうしよう」

と村人たちは、一生懸命考えました。

すると、一人の男がいました。

「ずっと前に、こんなことを聞いたことがある。それは、人柱をたてたらええということじゃ。」

「人柱？人柱ってなんじゃ。」

「人柱とは、いきた人間を土の中にうめて、神様の、おいかりをしずめるのじゃ。」

「それは、ええことかも、しれんぞ。」

「でも、だれを人柱にたてるんじゃ？」

「… … … … …。」

みんな、シーンとだまってしまいました。

そこで、村人たちは、誰にしようかと相談しました。

誰も人柱になるのは、こわいし、いやだからです。

さよがいけそして、とうとう、はかまの、前と後を間違えて、はいてるものに決めました。

ある日のこと、庄屋さんが、はかまを前後反対にはいてきました。

「おい、はかまを、前後反対にはいたものが来たぞ。」

「誰だ、誰だ。」

「なんだ、庄屋さんじゃないか。」

そこで、村人たちは、人柱の話を、庄屋に話しました。すると、庄屋はびっくりして、

「ええ。なんじゃとお！、そ、そ、そりゃ困る。わ、わしだけ、勘弁してくれ。」

と頼みました。

「しかしのう、みんなで決めたことじゃから… …。」

「庄屋さんには、悪いがのお。」

すると、庄屋は

「そうじゃ、サヨじゃ、サヨじゃ、わしの家に奉公に来ているサヨという娘がおる。そのサヨでは、どうじゃろう。」

さよがいけ「サヨなら、一人で奉公に来ているのだから、いなくなってもわかりやしない。」と話をもちかけました。

村人たちは、

「そうじゃのう。それがええかもしれんのう。」

ということで、サヨを、庄屋の身代わりとして、人柱にすることにしました。

その夜、庄屋は、どうしたら、サヨを池に行かせることができるか考えました。

あくる日、そんなこととも知らないサヨは、朝早くから、いつものように、一生懸命働いていました。

すると、いつもこわい顔をしている庄屋は、この日ばかりは、にこにこして、

さよがいけ「おーい、サヨ。この弁当を池まで持っていってくれんか。」

「はい。行ってまいります。」

やさしい、サヨは、

「誰が、お弁当を食べるのかなあ。早く、届けてあげましょう。」

と池へ急いでいきました。

サヨが、土手に登るのを見届けると、そっと、後をつけてきた庄屋は、サヨの、背中を押して、穴の中につき落としました。

かわいそうに、サヨは、庄屋の身代わりにされてしまいました。

それからというもの、不思議なことに、村は、水びたしに見舞われることがなくなり、平和な日々が続きました。

さよがいけ ある日のこと、サヨのお母さんが、遠い丹後の国（現在の京都府北部）から、尋ねてきました。

「庄屋さん。サヨは、元気でおりますか？。あわせて下さいな。」

すると、庄屋は、こわい顔で言いました。

「サヨなどしらん。どこかへ行ってしもた。」

と言って、また、

「早く、帰れ、帰れ。」

とお母さんを追い返してしまいました。お母さんは、

「サヨ、サヨ。どこにいるの？」

と、泣き、泣き、国へ帰っていきました。

それから、二年たち、三年たちして、大変なことが起こりました。

さよがいけそれは、夜になると、馬にまたがり、手にたいまつを持った女の人が現れ、西の

方から家に、火をつけるのですでした。

その女の人は、庄屋の身代わりのサヨにそっくりでした。

庄屋や村人は、口々に

「たたリじゃ。たたリじゃ。」

と大騒ぎになりました。

そこで、村の人は、池の頭に、弁天さんとしておまつりし、毎日、毎日、お参りにいきました。

「サヨ。お前をだまして、すまなかった。」

「本当に、わしらが、悪かったんじゃ。」

「お母さんまでだまして、許しておくれ。」

村の人たちが、一生懸命に、サヨさんに謝って暮らすうちに、いつのまにか池は、いつも青い水が一杯たまり、土手も切れずに、牛や馬も流されなくなりました。

また、火事もなく、平和な村になりました。

そして、この池は、「さよが池」と呼ばれるようになりました。今でも伊勢の楠原に残っているそうです。